授業科目名	領域のねらい		
担当者名	木本　節子	実務家教員	○
科目コード	1301006	授業形態	講義
学年	1 年	開講期	2025 年度前期
単位数	2 単位	履修	幼稚園教諭必修 保育士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	幼児教育は園生活全体を通して総合的に指導することを理解し、特に幼稚園教育要領・保育所保育指針の 30 年度改訂ポイントである資質・能力の三つの柱－中略－の理念を学び、幼児期と児童期の教育課程・指導方法の違いを理解する。 又、「乳児期のねらい及び内容」は発達の特徴を踏まえ 5 領域ではなく 3 つの視点 WHO の定義を引用すると「身体的・社会的・精神的」から編成されていることを理解する。特に乳児から 2 歳児までは、心身の発達の基礎が形成される上で極めて重要な時期であることを踏まえて幼稚園教育の基本を学び、五領域のねらいと内容及び環境構成の位置づけを担当教員のオリジナル資料「筑紫の心と保育展開－五領域（心情・意欲・態度）の内容と内容の取り扱いの位置づけ－」を活用し、本学の建学の精神「よいこのこころはちくしのこころ」と五領域の関連性について解説する。 その学びが「幼・保・小の架け橋プログラム」へとつながり、小学校との円滑な接続期にふさわしい活動の在り方」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10 の姿）や「インクルーシブ保育のあり方」などが「育ちと学びの架け橋」となるような授業を展開していく。幼稚園園長としてこの目的を達成するために、担当者が製作した絵本「学園の一本のすももの木」や「みんなおともだち」を教科書として取り入れ、総合的指導（総合学習）についてより理解を深める。（地域の人材活用としてゲストティーチャーが一部参加予定である）		
授業の到達目標〔学習成果〕	（1）領域・ねらい＜担当教員のオリジナル資料を基に解説＞ これからの社会を担う幼児たちに求められる資質･能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 （幼稚園教育要領前文の趣旨に沿った教育方法） 1）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2）これからの社会を担う幼児たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（教育要領及び保育所保育指針の改訂ポイントや主体的、対話的で深い学びの実現）を理解している。 3）学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4）学習評価の基礎的な考え方を理解している。（小学校と幼稚園の評価方法の違い） ※幼稚園教諭は「育みたい資質･能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方､『幼児期終了までに育ってほしい 10 の姿』が「育ちと学びの架け橋」となることを理解している。」 （2）教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。		

	1）話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 （3）情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 1）幼児たちの興味や関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・掲示することができる。 ※幼稚園教諭は「幼児を理解し興味や関心を高めたり保育をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器をかつようして効果的に教材等を作成・提示することができる。」 2）幼児たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

授　業　計　画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1.	「幼児教育」の意義（オリエンテーション） 幼・保・小の架け橋プログラムやインクルーシブの保育のあり方について [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）4）	「幼児教育」の意義（オリエンテーション） 幼・保・小の架け橋プログラムやインクルーシブの保育のあり方について [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）4）
2.	教育要領の前文の主旨及び要点 [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）	教育要領の前文の主旨及び要点 [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）
3.	地域と共に「こいのぼり交流会・春の探索」 （幼・保・小との円滑な接続）	地域と共に「こいのぼり交流会・春の探索」 （幼・保・小との円滑な接続）
4.	教育・保育方法の基本（改訂のポイント）② [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）	教育・保育方法の基本（改訂のポイント）② [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）
5.	教育要領・保育所保育指針の改訂ポイント ・資質・能力の三つの柱の理念について ・乳児期のねらいについて（入園前の子ども理解） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）	教育要領・保育所保育指針の改訂ポイント ・資質・能力の三つの柱の理念について ・乳児期のねらいについて（入園前の子ども理解） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）
6.	幼児教育における遊びを通した指導について理解する [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）	幼児教育における遊びを通した指導について理解する [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）
7.	子どもの活動（遊び）を担当者創作絵本「みんなおともだち」を活用してその内容を理解する。	子どもの活動（遊び）を担当者創作絵本「みんなおともだち」を活用してその内容を理解する。
8.	担当者の創作絵本「みんなおともだち」を活用し、その内容や「幼児期終了までに育ってほしい」10 の姿を読み取りアクティブラーニングを実施① [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）	担当者の創作絵本「みんなおともだち」を活用し、その内容や「幼児期終了までに育ってほしい」10 の姿を読み取りアクティブラーニングを実施① [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）
9.	上記の活動（アクティブラーニングを導入）② [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）	上記の活動（アクティブラーニングを導入）② [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）

10.	活動を分析し幼児教育における見方・考え方を話し合うー視聴覚教材を活用しながら幼児教育と小学校教育の違いを理解する [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）（2）2）　（3）1）	活動を分析し幼児教育における見方・考え方を話し合うー視聴覚教材を活用しながら幼児教育と小学校教育の違いを理解する [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）　（2）2）　（3）1）
11.	支援を要する子ども（インクルーシブの保育）理解とクラス運営について インリアルアプローチ導入（視聴覚教材） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）（2）2）　（3）1）	支援を要する子ども（インクルーシブの保育）理解とクラス運営について インリアルアプローチ導入（視聴覚教材） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）　（2）2）　（3）1）
12.	幼児教育における教育課題について （1）幼稚園の「教育環境　精神・方針・目標」と教育要領のつながり 本学の建学の精神「よいこのこころはちくしのこころ」① [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）	幼児教育における教育課題について （1）幼稚園の「教育環境　精神・方針・目標」と教育要領のつながり 本学の建学の精神「よいこのこころはちくしのこころ」① [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）
13.	幼児教育における教育課題について （2）教育課程の編成・作成について②（視聴覚教材を活用する） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）（2）1）2）　（3）1）	幼児教育における教育課題について （2）教育課程の編成・作成について②（視聴覚教材を活用する） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）　（2）1）2）　（3）1）
14.	幼児教育における教育課程について③ （3）保育の編成手順（期・幼児の姿・ねらい・内容・活動・歌唱・行事・環境構成） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）（2）1）2）　（3）1）	幼児教育における教育課程について③ （3）保育の編成手順（期・幼児の姿・ねらい・内容・活動・歌唱・行事・環境構成） [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）　（2）1）2）　（3）1）
15.	まとめ 総合的学習について理解を深め「育ちと学びの架け橋」となることを学ぶ [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）（2）1）2）　（3）1）	まとめ 総合的学習について理解を深め「育ちと学びの架け橋」となることを学ぶ [授業のテーマ及び到達目標]（1）1）2）3）4）　（2）1）2）　（3）1）

準備学習・事後学習等についての補足説明

1. 授業終了後の「ふりかえり」、「事前の課題（自主研修）」を行い、その内容を自主的に発表することによって、次のステップに繋いでほしい。
2. この授業は、終了後の「ふりかえり」、「事前の課題（自主研修を含む）」を重視し、特にレポート（原本）提出の際は、本人用（コピー）を保管すること（期限を守る）。

成績評価の方法　〔評価項目と割合〕

定期試験	定期試験	定期試験
70%	70%	70%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
創作絵本『学園の一本のすももの木』		
創作絵本『みんなおともだち』		

参考書又は参考資料等	
1. 文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館 2. 厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』フレーベル館 3. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館	
そ の他 〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕	
「幼・保・小の架け橋プログラム」を円滑に実施するため、清水小学校、本城東幼稚園、聖が丘幼稚園、到津保育所との接続を図る。	
担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡	講義終了後の質問等対応可

授業科目名	算数		
担当者名	前川　公一	実務家教員	○
科目コード		授業形態	講義
学年	2 年	開講期	2026 年度前期
単位数	2 単位	履修	小学校教諭必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	算数科教育では、数学的な見方・考え方を働かせ、学習した内容を生活や学習に活用するための数学的な資質・能力を育成することをねらいとしている。そこで、算数科教育を実施するに当たり必要となる算数科の目標・指導内容・指導方法・評価に関する基礎的知識と基本的技能について講義する。特に、小学校教諭として長年の勤務実績を踏まえ、算数科の現行学習指導要領の概要、算数科の 5 領域（数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用）の教育内容と児童の認識特性、ICT の活用等について理解を深めるようにする。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 算数科教育の目標に基づき、算数科のねらいと算数科の本質を理解できる。 2. 算数科の各学年・領域で取り上げる教育内容と本質と指導方法を理解できる。 3. 各学年・領域での児童の実態と数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を考察できる。 4. 指導と評価が一体化した算数科の授業構築及び学習指導案を作成できる。		

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1.	算数教育の歴史的変遷と「算数を教える」とは	事前：テキストの全体を概観し、どのようなことを学ぶか調べてみる。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
2.	算数科教育の意義と算数科の目標について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
3.	算数科の指導と評価について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
4.	算数教育研究の動向と国内外の学力調査について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
5.	現行学習指導要領の特徴と要点について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
6.	算数科の教育内容と領域（数と計算、図形）、方法論について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
7.	算数科の教育内容と領域（測定、変化と関係、データの活用）、方法論について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
8.	「数と計算」領域（数の特徴、加減乗除の計算	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分）

	など）の指導	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
9.	「図形」領域（平面図形、立体図形、空間、位置、性質、論理など）の指導	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
10.	「測定」領域（長さ、かさ、時刻と時間、重さ、体積など）の指導	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
11.	「変化と関係」領域（折れ線グラフ、割合、比例、比など）の指導	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
12.	「データの活用」領域（表やグラフ、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、代表値など）の指導	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
13.	算数科におけるICTの活用、プログラミング教育（情報通信技術の活用を含む）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
14.	算数科の授業構築と学習指導案の作成	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
15.	算数科の模擬授業とその評価	事前：講義の全体を振り返る。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法　〔評価項目と割合〕

定期試験	課題	
70%	30%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
『新しい教職教育講座　教科教育編　算数科教育』	岡本尚子、他編著	ミネルヴァ書房

参考書又は参考資料等

1. 文部科学省『小学校学習指導要領解説編（平成29年告示）算数編』日本文教出版、2018年。

その他　〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡	

授業科目名	理科		
担当者名	花島　秀樹	実務家教員	○
科目コード		授業形態	講義
学年	2年	開講期	2026年度前期
単位数	2単位	履修	小学校教諭必修
ナンバリング	DP2-2-A		

授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	現在の日本の学校教育で求められている教育実践とは何かを理解することである。もう一つは，次々に登場する教育に関する流行に踊らされることなく，さまざまな教育実践や教育学研究の成果に学びながら，「よい理科授業」をつくるための基盤を作ることである。 以上の二つのねらいを達成するために，本授業では，教育方法（主に授業づくりと授業分析）に関する基礎的な知識や近年の学校教育に期待される役割について学んでもらうと同時に，教育について多様な観点から批判的に考えることにチャレンジしてもらう。そのため本授業は，教員による講義と，学生自身が取り組むアクティブラーニングによって展開していく。 本授業では，理科教諭や教育委員会における理科の指導主事経験を生かして，理科授業を構想する力と指導スキルの向上，実践と理論との往還を目指す。
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 教育方法（ICT活用含む）及び理科の授業づくりに関する基礎的な知識を授業構築に活用することができる。 ・授業づくりに関する理論を参考にしながら，目指す理科の授業像を具体的にもつことができる。 2. 近年の学校教育に期待される役割や教育動向について説明することができる。 ・2017・2018年版学習指導要領に影響を与えているコンピテンシー（資質・能力）ベースの教育　の特徴を説明することができる。 ・ICTが学校教育や理科授業をどのように変えるのか説明することができる。 3. 教育や理科授業について，多様な観点から批判的に考えることができる。 ・一つの回答に満足することなく，粘り強く教育や理科授業について考えることができる。

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1.	オリエンテーション及び自己の学びの振り返り	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
2.	日本の教育動向の検討①：終戦直後から昭和における学習指導要領の変遷	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
3.	日本の教育動向の検討②：現行学習指導要領の改訂とICT機器を活用した理科授業の改善及びGIGAスクール構想	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
4.	日本の教育動向の検討③：文部科学省の各審議会答申の概要と関係法令の変遷	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
5.	主体的・対話的で深い学び①：個別最適な学びと協働的な学びの概念整理と主体的・対話的で深い学びを実現する理科授業の方策	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
6.	主体的・対話的で深い学び②：主体的・対話的	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90

	で深い学びの検討と理科授業の改善の視点の整理	分)
7.	主体的・対話的で深い学び③：幼児期の学びと主体的・対話的で深い学びの検討と及び理科の授業構成	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
8.	日本における近代教授学の史的展開	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
9.	授業分析の理論と実際	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
10.	ICT 機器を活用した授業分析の実際	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
11.	理科と総合的な学習の時間との関係性	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
12.	理科教育の意義と目的	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
13.	自身が目指す理科の授業像づくり	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
14.	理科の授業像の相互検討	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
15.	振り返り・総括	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

成 績 評 価 の 方 法　〔評価項目と割合〕

定期試験	課題レポート	ミニレポート
40%	30%	30%

使 用 テ キ ス ト

書籍名	著者	出版社
使用しない。必要な資料は講義で配布する。		

参考書又は参考資料等

1. 文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館。
2. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』フレーベル館。
3. 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　理科編』東洋館出版。
4. 奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版、2021 年。
5. 田村学『深い学び』東洋館出版、2021 年。

そ の他　〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他

講義開始後に改めて連絡	講義終了後の質問等対応可

授業科目名	家庭		
担当者名	内本　郁美	実務家教	○
科目コード		授業形	講義
学年	2 年	開講	2026 年度後期
単位数	2 単位	履	小学校教諭必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	平成 29 年に改訂された『小学校学習指導要領【家庭編】』では「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」が家庭科教育の三つの柱とされている。本授業では、小学校教諭として家庭科教育に携わってきた教員が、各項目について学習指導要領を踏まえながら小学校家庭科のねらいについて総合的に理解することを目指す。この目的のために、指導要領にあるように「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を育成するため、他の小学校科目とのつながりだけでなく、実技実習なども効果的に取り入れ、児童のよりよい学びについて考察する。また、本学では幼稚園教諭一種免許状や保育士資格も取得できることから、これらの教育内容とのつながりについても触れることとする。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1）小学校家庭科の目標・内容及び教育的意義について他者に説明することができる。 2）小学校家庭科を指導する上で必要な基礎的・基本的知識及び技能を習得することができる。 3）自分が興味を持った現在の生活上の課題について調べ、レポートにまとめることができる。		

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1.	オリエンテーション　授業の進め方について	事前：テキストの全体を概観し、どのようなことを学ぶか調べてみる。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
2.	家庭科教育のねらい　育みたい力	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
3.	家族・家庭生活①　家族の歴史と在り方	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
4.	家族・家庭生活②　生活のリズムや地域と家族の関わり	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）
5.	衣食住の生活①　衣領域の指導内容・学習内容の把握	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90 分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90 分）

6.	衣食住の生活②　おいしい食事　みそ汁・ごはんの調理（実習）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
7.	衣食住の生活③　おいしい食事　栄養バランスの取れた食事を考えよう	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
8.	衣食住の生活④　衣服や生活雑貨の手入れ　季節の衣類　小物づくりの準備	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
9.	衣食住の生活⑤　楽しい裁縫　小物づくり	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
10.	衣食住の生活⑥　住まいの整頓　快適なお家を建てよう（設計）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
11.	衣食住の生活⑦　住まいの整頓　快適なお家を建てよう（製作）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
12.	消費生活と環境①　お金の仕事を考える	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
13.	消費生活と環境②　児童にかかわる消費者トラブル	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
14.	消費生活と環境③　ものを大事にするアイデア	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
15.	振り返り　グループワーク　家庭科に求められる観点とつながりをまとめる	事前：講義の全体を振り返る。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明		
成績評価の方法　〔評価項目と割合〕		
定期試験	演習課題（裁縫や製作など）やレポートの達成度	毎時の授業ポートフォリオ

40%	30%	30%

使 用 テ キ ス ト		
書籍名	著者	出版社
『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　家庭編』	文部科学省	

参考書又は参考資料等
1．検定教科書『新しい家庭　5、6』東京書籍。

そ の他　〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡	講義終了後の質問等対応可

授業科目名	社会福祉		
担当者名	田中　文佳	実務家教員	○
科目コード	1310003	授業形態	講義
学年	1年	開講期	2025年度前期
単位数	2単位	履修	保育士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	社会福祉士として自治体での勤務経験を有する教員が、社会保障の意義と制度の概要、現代社会の社会福祉の課題について講義する。目まぐるしく変化する社会状況と山積する様々な生活課題に触れ、利用者支援の理念と実際について学習する。また、こどもを取り巻く環境とともに、こども家庭支援の課題と今後の取り組みについても理解を深める。様々な視聴覚教材、新聞、ニュース等の資料を活用した授業を通して、社会福祉の現状と課題への意識化を目指していく。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1．現代社会における複雑で多様な社会福祉ニーズとその背景を構造的に理解し、様々な社会課題に関する方策を考察できる。 2．社会福祉の法制度及び実施体系を理解している。 3．地域福祉推進の視点を養い、地域共生社会の理念と重要性について説明できる。 4．個々のケースに応じた支援策について社会保障、社会福祉サービスを組み合わせて具体的に考察できる。		

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1.	現代社会の動向と社会福祉 ① 私たちを取り巻く社会の動向 ② 家族の機能とコミュニティの変容 ③ 人口減少、少子高齢社会の課題	事前：テキストの全体を概観し、どのようなことを学ぶか調べてみる。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
2.	社会福祉の歴史と展開 ①世界の社会福祉の歩み ②日本の社会福祉の歩み	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
3.	社会福祉の理念と概念 ① ソーシャルインクルージョンと地域共生社会 ② 尊厳の保持と自立支援 ③ 生活モデルとICFの捉え方	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
4.	社会福祉に関連する法律 ① 社会保障の構造 ② 社会福祉に関連する法律	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
5.	社会福祉の実施体系 ① 行政機関 ② 民間専門機関・団体 ③ 社会福祉の財源	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
6.	社会保障の意義と制度（1） ① 社会保障と私たちの暮らし ② 社会保障の概念と体系	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分） 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。（90分）
7.	社会保障の意義と制度（2）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。（90分）

	① 公的扶助（生活保護制度、社会手当） ② 社会保険制度（年金保険、医療保険、介護保険）	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
8.	社会保障の意義と制度（3） ① 介護や育児の休業について ② 出産・子育てを支援する制度 ③ 労働に関する法律、雇用保険制度	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
9.	子ども家庭福祉の理念と法制度 ① 子どもを取り巻く環境と子どもの権利 ② 子ども家庭福祉に関する法律と実施機関 ③ 少子化対策（子育て支援施策）の課題	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
10.	高齢者福祉の理念と法制度 ① 超高齢社会の課題と高齢者福祉の法制度 ② ケアマネジメントと地域包括ケアシステム ③ 介護 ICT、IOT、介護ロボットの活用と福祉サービスの質	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
11.	障害者福祉の理念と法制度 ① 障害の定義と ICF の考え方 ② 障害児、障害者を支える法制度 ③ 福祉用具の活用と住環境の整備	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
12.	地域福祉と災害に対するリスクマネジメント ① 地域福祉の理念と住民主体のまちづくり ② 災害対策とインフォーマルネットワーク ③ 外国にルーツを持つ児童の保育と支援	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
13.	医療的ケアを要する児童の支援 ① 医療的なケアを要する児童の動向 ② 医療的ケア児に関する法制度と今後の課題	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
14.	福祉サービスの利用支援と権利擁護 ① 福祉サービス利用者の権利を擁護する制度 ② 個人情報保護の制度 ③ 消費者の利益を守る制度 ④ シンボルマーク	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
15.	社会福祉とソーシャルワーク ① ソーシャルワークの理解 ② 社会福祉援助技術の実際 ③ 保育士に求められるソーシャルワークの視点	事前：講義の全体を振り返る。(90分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明		
成績評価の方法　〔評価項目と割合〕		
定期試験	課題レポート	確認テスト
50%	30%	20%
使用テキスト		

書籍名	著者	出版社
『みらい×子どもの福祉ブックス社会福祉』	志濃原亜美編	株式会社みらい

参考書又は参考資料等
1.『社会福祉小六法 2024』［最新版］ミネルヴァ書房。 2. 編著／伊東利洋『社会保障制度 指さしガイド』[最新版]日総研。
そ の他 〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕
担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡	

授業科目名	特別支援教育概論		
担当者名	山田　俊之	実務家教員	○
科目コード	1301605	授業形態	講義
学年	1 年	開講期	2025 年度前期
単位数	2 単位	履修	卒業必修 幼稚園教諭必修 小学校教諭必修 特別支援学校教諭必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	本授業は教員免許状取得のための必修科目であり、長年インクルーシブ教育に携わり、ボディパーカッション教育などを開発してきた教員による、特別の支援を必要とする幼児児童生徒への教育の基礎的理解に関する科目である。 日本の特別支援教育の歴史を学び、現在につながるインクルーシブ教育の重要性を学び、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害（「視覚障害」「聴覚障害」「発達障害（自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・」「発達障害（学習障害・グレーゾーン)」「言語障害」「吃音」、「場面緘黙」）の特性及び心身の発達を理解する。 特別支援が必要な児童生徒が健常者と共に学習や生活できるためのインクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解できるようにする。発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解していく。 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解し、特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。さらには、特別支援教育コーディネーターの必要性を理解できるようにする。 母国語や貧困や家庭の状況の問題、国籍、文化、習慣の違い等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性から、21 世紀において不可欠の教養である「ダイバーシティ・インクルージョン社会」のあり方を理解していく。		
授業の到達目標〔学習成果〕	1. 日本の特別支援教育の歴史を学び、現在につながるインクルーシブ教育の重要性を理解できるとともに、様々な種別の障害（知的、聴覚、視覚、肢体不自由、病弱等）があることを理解する。 2. 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができる支援の必要性を学ぶ。 3. 個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。 4. 本人・保護者の願いや関係者の取り組みについて、当事者の視点を身につけ合理的配慮の意味や基本的内容を理解できる。 5. 欧米やインクルーシブ教育発祥のイギリスの制度に学び、「ダイバーシティ・インクルージョン社会」のあり方を理解できる。		
授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間	

1.	オリエンテーション、障害・疾病・特別支援教育の必要性について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
2.	障害・疾病・特別ニーズを有する子どもの教育の歴史「明治時代、大正時代から戦前」までの障害児教育の変遷について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
3.	障害・疾病・特別ニーズを有する子どもの教育の歴史「戦後の昭和」の障害児教育、「平成・令和」の障害児教育から特別支援教育の変遷と現状について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
4.	障害についての各論として特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「視覚障害」の特性及び心身の発達を理解する。の特性及び心身の発達を理解する。	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
5.	障害についての各論として特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「聴覚障害」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
6.	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「発達障害（自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
7.	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「発達障害（学習障害・グレーゾーン)」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
8.	障害についての各論として特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の「言語障害」「吃音」「場面緘黙」の特性及び心身の発達を理解と支援について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
9.	特別支援が必要な児童生徒が健常者と共に学習や生活できるためのインクルーシブ教育システム	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
10.	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について理解する	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
11.	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習過程の理解を深める	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
12.	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
13.	教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
14.	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90分)
15.	母国語や貧困や家庭の状況の問題、国籍、文化、	事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90

	習慣の違い等に対応し、世界的な流れであるダイバーシティとインクルージョンからみた特別支援教育と日本の現状について	分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法　〔評価項目と割合〕		
定期試験	ディスカッション	
50%	50%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
配布しない。適宜指示する。		

参考書又は参考資料等
1. 加瀬進・髙橋智編著 『特別支援教育総論』 一般社団法人放送大学教育振興会、2019 年。

その他 〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕
定期試験については、各回の講義についてのレポート提出とディスカッションの様子を加味するとともに、特別支援教育の基礎的文言の理解や特別支援教育について筆記試験を実施。 ディスカッションについては、毎授業の後の理解度確認テストと学修後の学びの広がり、深まり課題意識の観点で評価。

担当教員の連絡先等	
担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡	

授業科目名	特別活動指導論		
担当者名	脇田　哲郎	実務家教員	○
科目コード		授業形態	講義
学年	4 年	開講期	2028 年度前期
単位数	2 単位	履修	卒業必修 小学校教諭必修
ナンバリング	DP1-4-A		
授業の概要と方法〔実務家教員についての特記事項含む〕	小学校教諭・校長として特別活動に注力してきた教員による授業。特別活動の教育課程上の位置付けや「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という視点と特別活動で育成する資質・能力との関係や各活動・学校行事の学習過程や特質に応じた指導方法について理解する。特に，特別活動の核となる学級活動(1)の合意形成する授業づくりや学級活動(2)(3)の意思決定する授業づくりについてプランニングシートを活用して主体的，対話的で深い学びができるようにする。		
授業の到達目標〔学習成果〕	特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。		

授業計画		準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要時間
1.	特別活動の歴史的な変遷や特別活動の教育的意義及び特別活動への「問い」について	事前：テキストの全体を概観し、どのようなことを学ぶか調べてみる。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
2.	特別活動と各教科，道徳科，総合的な学習の時間等との関連や特別活動の評価について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
3.	児童会活動・生徒会活動・クラブ活動・学校行事の内容と特質を踏まえた指導法について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
4.	学級活動(1)，学級活動(2)，学級活動(3)の特質について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
5.	学級活動(1)「学級会」の授業分析について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
6.	学級会の授業を構想について（プランニングシートの活用）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
7.	学級会の指導案について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)

8.	自発的・自治的活動と学級経営との関係について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
9.	自己の生活課題の解決方法を意思決定する学級活動(2)について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
10.	学級活動(2)の授業構想について（プランニングシートの活用）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
11.	学級活動(2)の指導案について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
12.	将来の生き方に関する課題の解決方法を意思決定する学級活動(3)について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
13.	学級活動(3)の授業構想について（プランニングシートの活用）	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
14.	学級活動(3)の指導案について	事前：テキストの指定範囲を通読しておく。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)
15.	特別活動への「問い」に対する発表	事前：講義の全体を振り返る。(90 分) 事後：講義の要点を再確認し、ノートにまとめる。(90 分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

成 績 評 価 の 方 法　〔評価項目と割合〕

定期試験	提出物（プランニングシートや指導案の内容）	授業における発言や貢献度
50%	40%	10%

使 用 テ キ ス ト

書籍名	著者	出版社
『小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）　特別活動編』	文部科学省	東洋館出版

参考書又は参考資料等

1. 汐見稔幸ほか監『特別活動の理論と実践』ミネルヴァ書房、2020 年 9 月。

そ の他　〔受講に際しての注意点、課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員 E-mail	その他
講義開始後に改めて連絡	